

11月24日（火）

おはようございます。

僕は、ときどき土曜日に、読売新聞の高校の欄で対談をさせてもらっています

今回僕は、自分からリクエストして慶応大学の准教授、中室牧子先生と対談したいとお願いをしました。彼女は有名になる前、一昨年の夏に企画があって、話をさせてもらったことがあります。その後に『「学力」の経済学』という本がベストセラーになり、アマゾンで4週か5週連続1位になりました。それで今は売れっ子です。慶応大学の准教授をしながら、月に20本くらいの講演依頼がくるのだそうです。基本的に大阪での講演は受けないとおっしゃっていましたが、以前のご縁もあって、清風だったら話させてもらいに行きますと快諾してくださったのです。

その理由を彼女は次のように言いました。「私がなぜ清風に来たかと言うと、清風の教育方針の自利利他の考え方は、グローバル人材の定義そのものだと思うからです。現在グローバル教育というのが盛んに言われています。しかし、英語ができることがグローバル教育だと思っている感じがあるけれどもそれは、ぜんぜん違います。これから英語ができるのは当たり前でしょうが、英語を話せるようにすることがグローバル教育ではないのです」と。

もし、英語を話せる人材がグローバル人材だとしたら、アメリカ人は全員グローバル人材だということになります。そんなことがあるはずはないですよ。グローバル人材というのは何かというと、その人が、多くの人のお役に立とうと思って、そして自分を高めようと頑張っている人のことなのです。これこそがグローバル人材だと、対談の初めに言ってくださいました。そう言って下さりとても嬉しかったです。

2008年に、ノーベル経済学賞をとったポール・クルーグマンという人がいます。現在、日本ではアベノミクスを行っていますが、これは安倍首相が考えたことではなくて、このポール・クルーグマンの考え方なのです。要するに、円安にして輸出を盛んにするという考え方です。このポール・クルーグマンが、21世紀に必要とされる人材の条件とは、たったひとつであり、人々の役に立とうとしている人材だと述べています。英語ができる人だとも言わなかったのです。人に貢献しようと思っている人材、他者に貢献しようと思っている人材が、21世紀に必要とされる人材だと。中室先生のお話を聞きながら、そういうことを思い出しました。

まさに清風は多くの人のお役に立つ人材を育てようとする学園です。ただし、多くの人のお役に立とうと思うのなら、内容がなくてはなりません。それが無かったら役に立ちようがないからです。気持ちは大切けれども内容がなくては貢献しようがありませんから。たとえば、お医者さんにちゃんとな

るとか、弁護士になるとか、あるいは自分なりに考えていろいろなことを学んできたとか、こういうことが何もなかったら、人の役に立ちようがないのですね。だから、多くの人のお役に立とうと考えた上で、自分を高めていくことを忘れてはいけません。

清風の自利利他の考え方は、ギブアンドテイクの関係とは違います。これをあなたにやってあげるから交換にこれを僕にやってくれという関係ではありません。まず自分を高めていくことによって、多くの人のお役に立とうというのが、清風の自利利他です。そういう意味で、清風の考え方はグローバル人材の定義そのものだと思います。

中室さんは大変忙しい方なのに清風にはきて対談をして下さいました。しかも、とても安いお金できて下さいました。その理由が清風が本当のグローバル人材の教育をしているからということでした。大変期待されているのだと実感しています。

そういう意味で、諸君たちは多くの人のお役に立とうという視点でもって自分を高めていくことを目指してほしいと思います。この志をもてるかどうかはまずとても大切なことです。起業でもなんでも実際に成功している人が、必ず学力が高い人かということはありません。しかし学力があれば、それだけで多くの人に貢献できる貢献度が上がるでしょう。ですから次に学力をつけたほうがいいのです。しかしながら学力の高い人が、みな社会に貢献できるかということ、これはまた違うのですね。そこで、間違いなく言えることは、多くの人のお役に立とうという気概でもって、自分を育てていくということ、たゆまなく、そしてあきらめることなく自分に期待感をもって生活することは、すばらしい生き方だということなのです。こういう人が間違いなくグローバル人材なのです。いま成績が40人中40番であろうと、家族がどういうことであろうと、どんなことがあっても、多くの人のお役に立ちたいなあと、将来必ず自分は人々のお役に立ちたいと思って、そして、自分を高めていくことを忘れなければ、間違いなくグローバル人材となるのです。つまり、21世紀の人類が期待している人材に。

そのことをよくよく自覚して、よくよく自分を見つめて、いろいろなことがあっても目先のことにとらわれず、たまにはずれてしまったりすることもあるけれども、しっかりと軌道を修正してがんばってもらいたいと思います。

21世紀のリーダーの条件は、正しい倫理観とぶれない軸です。多くの人のお役に立ちたいと、そのために自分を磨いていくのだということをお忘れず毎日を送って下さい。

今朝の話はこれで終わります。

( 学校長 )